

自分の思いや考えを進んで表現できる児童の育成（2年次）
～極小規模校だからこそできる授業の工夫を通して～

1 研究テーマ・サブテーマについて

本校は、農業、林業、畜産業が盛んな山間部に位置していて、地域素材に恵まれた環境にある。本年度の全校児童数は9名で、第3学年が欠学年のため、低・高学年が複式学級、第4学年と特別支援学級が単学級の編成をとっている。日頃は、各学級で少人数による授業を行っているが、年間を通して全校道徳や福賀ふるさと夢太鼓等、全校児童で行う授業や活動もたくさんある。また、保護者や地域の協力が厚く、近年のコロナ禍においても、感染対策に十分に留意しながら、ふるさと学習や学習発表会、田植えから稲刈り、親子もちつき大会へと続く米作り体験等、特色ある教育活動を行った。

しかし、本校ならではの課題も少なくない。「話合いが深まらない」、「新しいアイデアが生まれにくい」等は、極小規模校の児童に対して言われがちな話であるが、教員に対しても同様の感がある。少人数の上に行事が多いため、前年度のやり方を踏襲しがちで、それに囚われることが、内容の形骸化や教員の負担感につながっているように思える。

上記の研究テーマは、本校児童が長年抱えている課題に対して設定したものである。その課題を教師サイドの新たな視点と行動力をもって解決するために、上記のサブテーマを設定した。極小規模校の利点や地域の特性、それらをアレンジする教員のアイデアを生かして、極小規模校においても新たな教育活動が創造されることをねらっている。

2 研究の目的

本校だからこそできる授業や、その授業を確立させるために必要な視点や手立て等を見出すために、3年のスパンで取り組むこととした。1～3年次までのそれぞれの研究の目的とその系統性を以下に示す。

(1) 1年次（令和3年度）『地域素材の教材化を図る』

昨年度における、地元の農業、林業、畜産業を教材としたふるさと学習の新たな取組や、今までの取組にアレンジを加えたものを以下に示す。

- ・地元に飛来したアサギマダラの観察、地域おこし協力隊の方による草木染体験 等
- ・無角和牛とホルスタインを比較しながらの調査活動
- ・スマート農業の見学と体験及び「福賀の農業のすごいところ」についての討論会
- ・間伐の見学と間伐材を使った発電についての講話及び発電のモデル実験
- ・四つ葉サークルによる紙芝居「宇生賀の七不思議」の上演と、その話に関連した場所を巡るウォークラリー

(2) 2年次（令和4年度）『全校合同授業における効果的な指導方法を見出す』

「全校〇〇」と称した全校合同授業を行い、そこで講じた手立て等の効果について検討し、異学年で授業を行う際の指導方法の確立をめざす。

(3) 3年次（令和5年度）『極小規模校だからこそできる授業の創造』

- 1・2年次の研究の成果を基に、本校ならではの授業の実践を積む。

3 本年度の研究について

前項でも述べたとおり、本年度は異学年で授業を行う際の指導方法の確立に主眼を置く。各学年に応じた手立ての在り方を見出すことができれば、全校合同授業だけでなく、日頃の授業や特別活動、各行事等で適切な指導や支援が行えるものとする。

本年度の研究の具体的な進め方を以下に示す。

(1) 研究の方法

①全校児童を対象とした授業「全校〇〇」

今までの全校道徳や全校体育のノウハウを深化させたり、他教科等にも生かしたりするために、各担任と管理職による全校合同授業「全校〇〇」を計6回行う。教科等は問わず、出来るだけ多くの授業実践から異学年で授業を行う際の効果的な手立てや配慮事項等を見出したい。

②阿武町小中3校共通の取組

阿武町小中3校では、昨年度より、育てたい心や力として、「きづく」、「きめる」、「きめる」、「やりぬく」（以下「4つの心や力」）を掲げ、授業改善に取り組んでいる。本校のような極小規模校においても、この「4つの心や力」を意識した授業とは如何なるものかを明らかにしていきたい。

(2) 研究の視点

①全員参加できる取組の工夫

例えば、福賀ふるさと夢太鼓を見たとき、学年によって演奏の難易度は違うが、その演奏全体は調和のとれたものになっている。一人ひとりの役割が保障されているかどうかを一つの視点とする。

②全学年に学びや達成感等のある授業の工夫

一人ひとりの役割が保障されていても、そこに学びがあり、達成感が生まれる授業でなければならない。どの教科等の授業であっても、学年や発達段階に応じた学習内容があるかどうかを二つ目の視点とする。

(3) 評価の方法

研究の方法の②に示した「4つの心や力」のいずれかを意識した手立てが、研究の視点①、②につながるものとする。そこで、授業者は、授業で講じる手立てを指導案上に授業の意図として示し、参観者は、その手立てが研究の視点①、②に効果を発揮しているかどうかを評価する。参観者は、本校教員だけでなく、市教研や3校協働研修会に機会を利用して幅広く募るようとする。

(4) 研修計画

全校合同授業実施日	授業者	「全校〇〇」	備考
1 6月27日(水)	中野 達史	全校活動	板書型指導案
2 7月13日(水)	鎌田 潤一	全校算数科	指導案形式提示
3 9月14日(水)	藏永 京子	全校道徳	板書型指導案
4 11月9日(水)	三輪 美咲	全校国語科	市教研統一研修日 ※10/19 指導案検討
5 12月14日(水)	清水 学	全校図画工作科	板書型指導案
	2月1日(水)	高橋 芽生	3校協働研修会 ※1/18 指導案検討

